

コロナ実態把握が困難に？ 感染最多の沖縄、今週最大2~3万人予測 検査限界の恐れ

2022/7/13 沖縄タイムス

新型コロナウイルスの感染者が3436人と過去最高になった12日、県疫学・統計解析委員会は「急速に感染者数が増加している」と警告し、今週（11~17日）の新規感染者数が計2万~3万人に達するとの見通しをまとめた。コロナ病床使用率が逼迫（ひっばく）による「医療崩壊」の懸念も示した。（社会部・平良孝陽）

■感染拡大収まらず

先週（4~10日）の新規感染者数は計1万5203人。全県的に増加する中、特に八重山では1368人と過去最高を更新し、「急速な感染拡大が収まらない」と分析した。

感染者1人が何人にうつすかを示す実効再生産数を見ると、先週は沖縄本島が1・29、那覇が1・23、宮古が1・39、八重山が1・76。子ども中心から、「徐々に壮年層に移行している」と指摘した。検査や受診体制が限界を迎え、新規感染者の報告数が1週間2万人前後で頭打ちになると、数字が実態を反映しなくなる恐れがある。

感染症に詳しい高山義浩医師（県立中部病院）は「感染は全県的に加速している。何らかの社会的な制限をかけなければ、さらに広がる可能性が高い」と述べた。

4日の米独立記念日、10日の参院選など、社会活動の活発化を指摘。今週末の3連休にも警鐘を鳴らす。

■社会的な制限は

ただ、「新規感染者数は流行の勢いをとらえる上で重要だが、健康被害と医療負荷の状況は、入院者数や救急外来の逼迫状況が重要だ」とし、医療現場の状況を注視する。

社会的な制限については、合意形成の必要性を説く。「子どもたちの感染が増えているが、一方で、子どもたちの大半は軽症であり、社会活動を優先させたいとの声もある。例えば、自粛してエイサーなどの沖縄文化が継承されなければ、負の遺産となりかねない」と理解を示す。

「現状を正しく分析し、今後の見通しを共有する。その上で、どこまで社会的な制限を求めるのか。漫然と見守るのではなく、県は早急に関係者と議論すべきだ」と求めた。

